

糖尿病教育に対する理解度と患者意識調査

○有居千尋 丸子亜希子 三末高央 畠山郁夫
高橋久雄（船橋市立医療センター）

【はじめに】当院では医師、看護師、栄養士、薬剤師などの他職種と連携して糖尿病教室を実施している。検査技師の役割は、血糖、HbA1c、脂質、インスリン、C-ペプチド、尿中アルブミンなどの糖尿病関連項目についての説明を行い、患者に血糖コントロールの重要性を理解してもらうことである。今回、糖尿病教室で説明した内容の理解度を把握し今後の指導の一助とするためアンケートを実施した。

【方法】対象は、平成26年4月から平成27年5月まで当院の糖尿病教室に参加した患者85名（男性53名、女性32名、平均年齢 64 ± 13 歳）とした。アンケート内容は、教室終了後に印象に残った講義や今後の自己管理のモチベーションに対する度合い、説明した検査項目に関する理解度などとした。また教室参加前後の糖尿病関連項目のデータ推移を調査した。

【結果と考察】アンケート結果は、「よく理解できた」と「少し理解できた」が多数を占めており、その中でもHbA1cや脂質に対しては患者自身もコントロール目標値を理解していた。しかしC-ペプチドおよび尿中アルブミンに対しては「あまり理解できない」との回答が5%以上あり難易度の高さがうかがえた。教室参加前後におけるHbA1cは、教室参加前が平均 $10.1 \pm 2.1\%$ であるのに対し、3か月後が $7.5 \pm 1.6\%$ 、6か月後が $7.5 \pm 1.4\%$ 、12か月後が $8.2 \pm 2.2\%$ と推移し、半年後までは改善が認められたものの、1年後には再び上昇する傾向にあった。

【結語】患者自身に合併症進展防止への理解を深めてもらい、自己管理のアドヒアランス向上と良好な血糖コントロールを目指し、今後もわかりやすい説明の仕方・資料の作成を検討していきたい。

連絡先047-438-3321(内線5175)